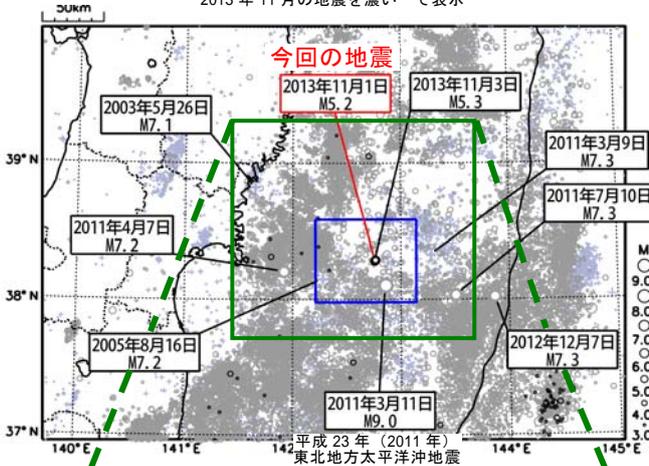


11月1日 三陸沖の地震

情報発表に用いた震央地名は「宮城県沖」である。

震央分布図
(1997年10月1日～2013年11月5日、
深さ0～100km、M 3.0、発震機構はCMT解)

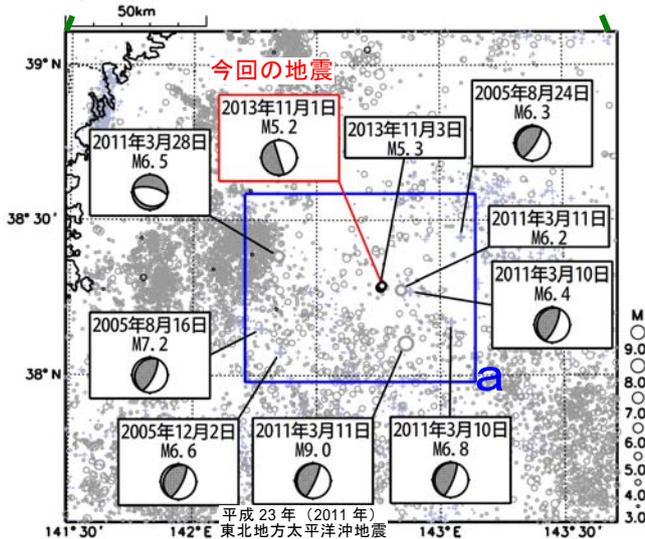
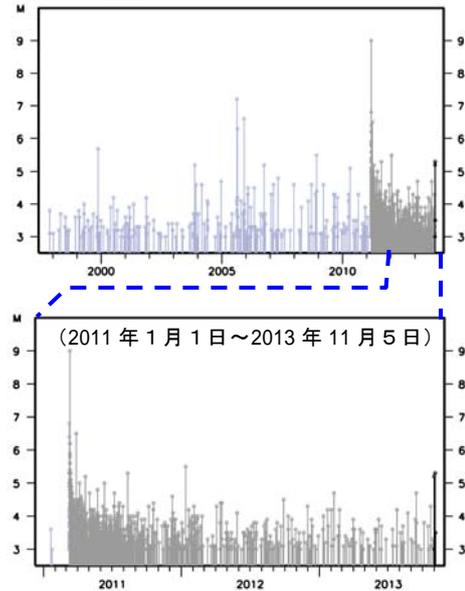
東北地方太平洋沖地震以前に発生した地震を+、
東北地方太平洋沖地震以降に発生した地震を薄い、
2013年11月の地震を濃い で表示



2013年11月1日00時01分に三陸沖でM5.2の地震（最大震度3）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は東北東-西南西方向に張力軸を持つ型である。また、ほぼ同じ場所で、3日17時52分にもM5.3（最大震度2）の地震が発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域a）では、M5.0以上の地震が時々発生している。2005年8月16日には、M7.2（最大震度6弱）の地震が発生し、負傷者100人、住家全壊1棟等の被害が生じている（総務省消防庁による）。また、2011年3月11日に「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」が発生しており、この地震の発生以降は地震活動が活発な状態が続いている。

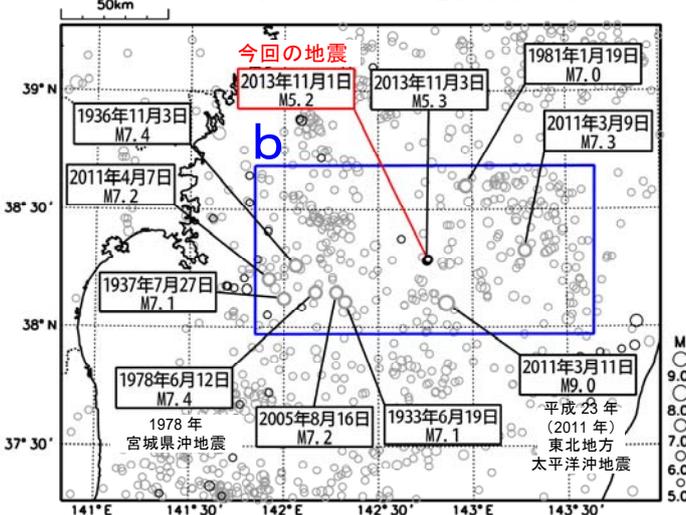
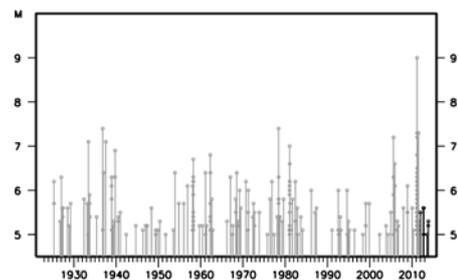
領域a内のM-T図



震央分布図
(1923年1月1日～2013年11月5日、
深さ0～100km、M 5.0)
2011年3月11日以降の地震を濃く表示

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、「1978年宮城県沖地震」や「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」など、M7.0を超える地震が時々発生している。

領域b内のM-T図



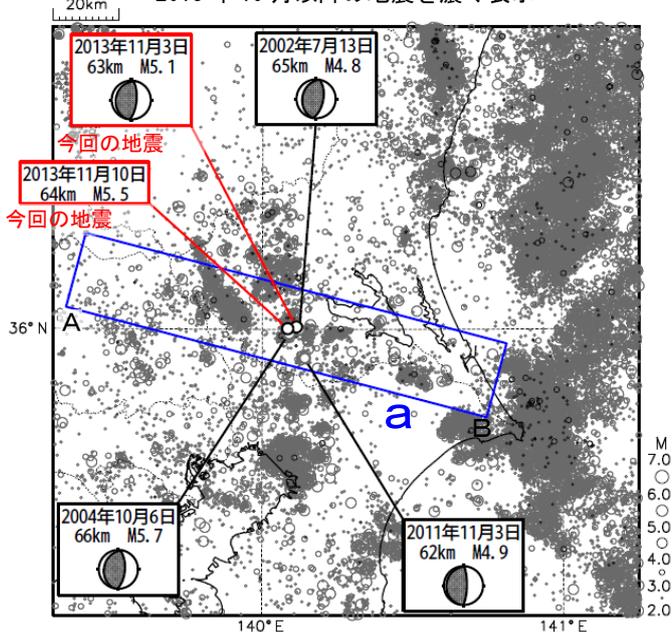
2011年3月13日～5月30日に未処理のデータがある。

11月3日、10日 茨城県南部の地震

震央分布図※

(1997年10月1日～2013年11月10日11時、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)

2013年10月以降の地震を濃く表示



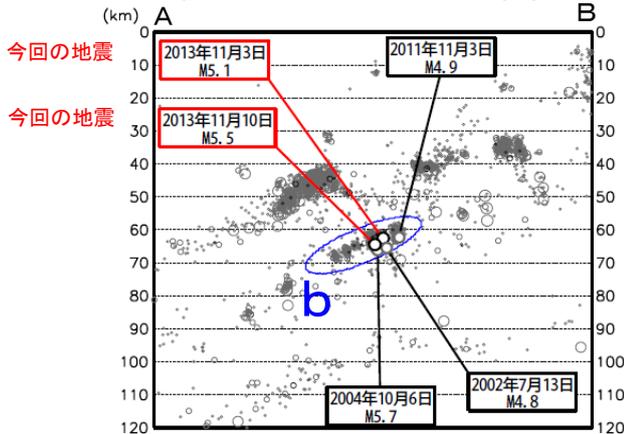
2013年11月10日07時37分に茨城県南部の深さ64kmで $M 5.5$ の地震(最大震度5弱)が発生した。また、3日14時25分には、この地震とほぼ同じ場所の深さ63kmで $M 5.1$ の地震(最大震度4)が発生した。

これらの地震は、ともに発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

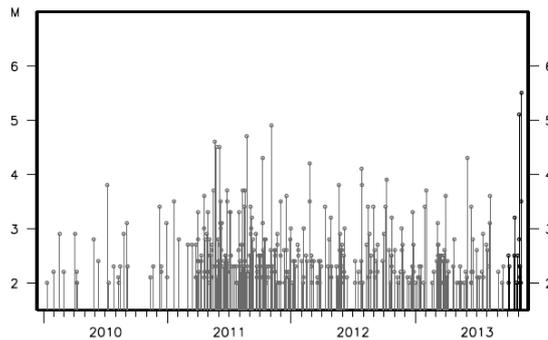
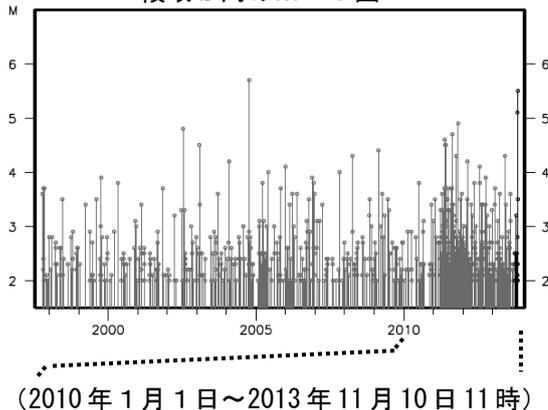
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)では、 $M 4.0$ 以上の地震がしばしば発生しており、2004年10月6日には、 $M 5.7$ の地震(最大震度5弱)が発生し、負傷者4人、水道管破裂などの被害を生じている(被害は総務省消防庁による)。また、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」発生以降、地震活動が以前より活発になっている。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、 $M 6.0$ 以上の地震がときどき発生している。

領域a内の断面図(A-B投影)※

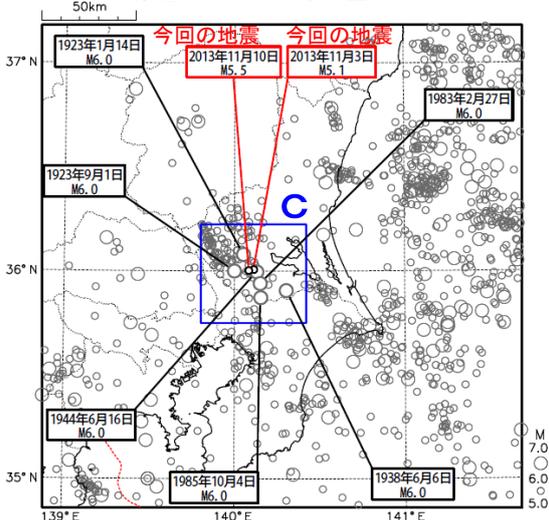


領域b内のM-T図※

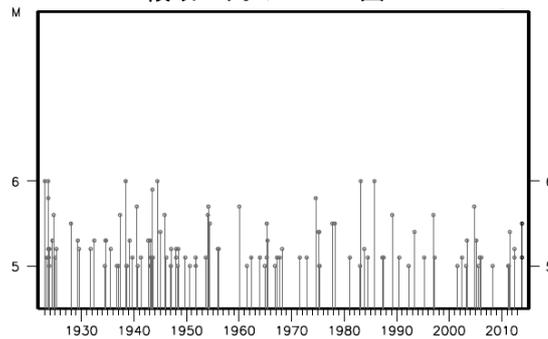


震央分布図

(1923年1月1日～2013年11月10日11時、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)



領域c内のM-T図



※ 2011年3月13日～5月30日に未処理のデータがある。